

弱視の幼児児童生徒への指導は、どのように行うのか・・・？

弱視の幼児児童生徒は、見え方によって生活や学習で必要とする支援が一人一人異なります。今回は、指導をする際に心がけたいことや見やすい条件や環境づくりについて、基本的な例をまとめています。

指導で心がけたいこと

- 「見える」喜び、「じっくり見ることで分かる」喜びを数多く体験させましょう。
- 言語での説明や触って分かる体験も取り入れましょう。
- 実験や調理実習などは最初から最後まで、すべての過程を体験させましょう。

見やすい条件とは

- 1 拡大する
 - 視距離を短くする
 - 見るもの自体を拡大する
 - 視覚補助具（ルーペ・拡大読書器・単眼鏡）を利用する。
 - ビデオカメラ・デジタルカメラ・タブレット端末を利用する。
- 2 コントラストをはっきりと（図1）
- 3 わかりにくい図や絵はマジック等で輪郭線をはっきりと
- 4 視覚的なノイズを消す

※本校では、各種の補助具や便利グッズを展示しています。

（図1）



↑同じ黒板の色に書いた「あ」の文字
どちらがはっきり見やすいですか？

見やすい環境とは

- 1 廊下にはなるべく物を置かない。（図2）
- 2 段差や階段は、白や黄色などのコントラストのある線ではっきりと示す。（図3）
- 3 採光に気をつける。
 - 座席の位置
 - 遮光カーテン（図4）やブラインドの設置
 - 電気スタンドの利用
- 4 書見台・傾斜机を使う・・・視距離が縮まり見やすくなる。
光が入りやすく、姿勢もよくなる（図5）
- 5 見えない時に、「見えない」「見えにくい」と言える学習環境
- 6 集団の中で視覚補助具（例：拡大読書器（図6））を自由に使える雰囲気づくり

（図2）廊下



（図3）階段



（図4）遮光カーテン



（図5）書見台



（図6）拡大読書器



※以上に基本的な例を示していますが、詳細は、熊本県立盲学校へご相談ください。